

梵鐘

この国宝に指定されている 2.5 トンの青銅の鐘は、かつて鳳凰堂と池をはさんだ場所に立つ鐘楼にかけられていました。現在そこに掛かっている鐘はレプリカです。平等院は、平安時代 (794–1185) に、何世紀にもわたって外気にさらされることへの保護と復元の目的で、梵鐘を室内に保管するようになりました。

古くは、大津の園城寺、奈良の東大寺の鐘と共に、この鐘は日本三名鐘の 1 つとして称えられていました。これらの鐘はそれぞれ、音色の園城寺、響きの東大寺、姿の平等院と言われています。平等院の鐘は、鐘の表面に多くの華麗な文様が施されています。上部には龍の群れが、中間に天上の人々が、下部には、獅子の群れが描かれています。和鐘の表面装飾には、多くの場合、帯状の空白の部位があります。

鐘の他の側面はより標準的です。鐘の上部付近には突起を施した帯が 4 面あり、鐘の響きに影響を与えます。鐘のフック部分に施された二頭の龍頭は、日本の寺院の鐘の一般的な特徴です。しかし、かつて鐘突き棒が鐘に当たった箇所を見下ろす龍は、非常に獐猛な表情をしています。